

2019年度 京都外国語大学 新入生調査

総合企画室 IR 推進グループ

2019/7/26

1 調査の概要

1.1 調査の対象、期間および方法

2019年度に入学した全ての学生を対象に調査を実施した。

外国語学部については1年次生の必修科目である「基礎ゼミナール」の授業中に回答してもらった。国際貢献学部については、必修科目で調査の実施についてアナウンスをしたうえでメールによる回答の依頼を行った。

アンケートは学内に構築したアンケート用サーバを用い、スマートフォンやコンピュータを用いて Web から回答してもらった。調査は記名式で実施した。個人を特定するユニークなトークンを含む回答用ページの URL をあらかじめ各個人の E-mail アドレス宛に送付し、各学生のメールに記載された URL から回答してもらった。

1.2 主な調査項目

- 本学の志望順位
- 入学決定理由と決定に役立った情報源
- 大学の魅力やイメージ
- 大学生活について
- 身につけたい力や学びたいこと
- 入学前の学修状況・学修行動
- 大学進学理由など

1.3 回収状況

表1 回収状況

学部	学科	男	女
外国語学部	英米語学科	140 (88.1%)	222 (87.4%)
	スペイン語学科	20 (87.0%)	48 (100.0%)
	フランス語学科	14 (82.4%)	34 (89.5%)
	ドイツ語学科	20 (95.2%)	34 (100.0%)
	ブラジルポルトガル語学科	22 (78.6%)	26 (96.3%)
国際貢献学部	中国語学科	11 (73.3%)	45 (80.4%)
	イタリア語学科	19 (100.0%)	25 (80.6%)
	日本語学科	14 (63.6%)	30 (88.2%)
	グローバルスタディーズ学科	15 (30.6%)	24 (40.0%)
	グローバル観光学科	4 (16.0%)	55 (49.1%)
全体		279 (73.8%)	543 (78.2%)

Note: 括弧内は回収率

2 本学への入学について

2.1 受験を決めた時期

本学を受験することを決めた時期をたずねた。多くの学生は、高校3年生になってから受験することを決めたようである。

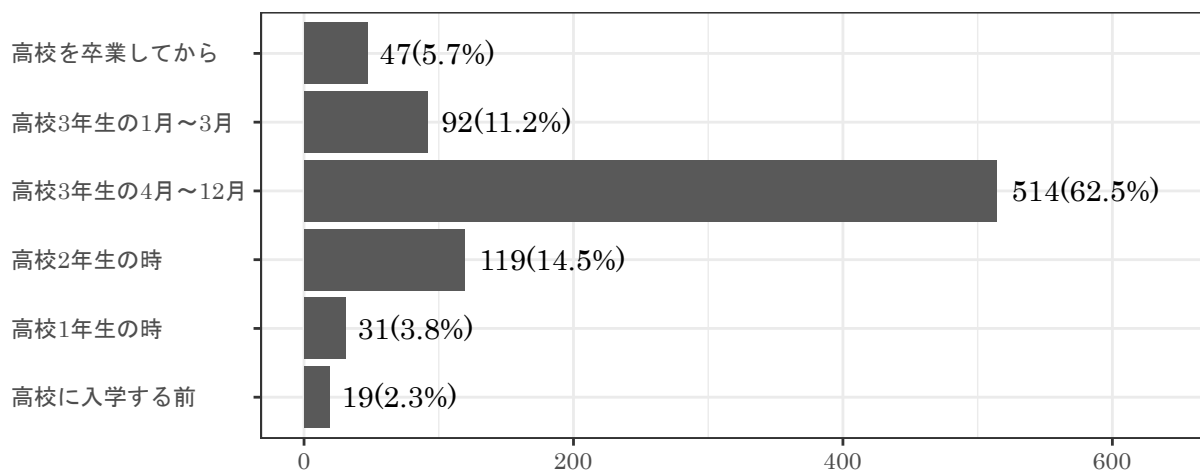


図1 受験を決めた時期

2.2 志望順位

本学が第一志望だったかどうかをたずねた。60%程度の学生が第一志望だったと回答しているが、不本意に入学した学生も一定数はいるようである。

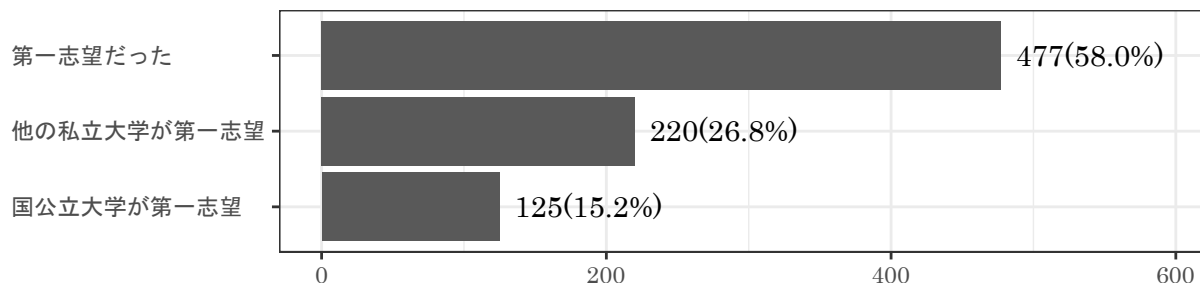


図2 本学の志望順位

2.3 学科が第一志望だったか

本学は外国語大学という特性から、「言語を学ぶ」という点では多くの学科が共通している。そのため、受験の際に学科間の併願がよく行われる。そこで学科についても第一志望であったかどうかをたずねた。多くの学生は、自分の希望する学科に入学できているが、一部に希望する学科には入学できなかった学生がいるようである。

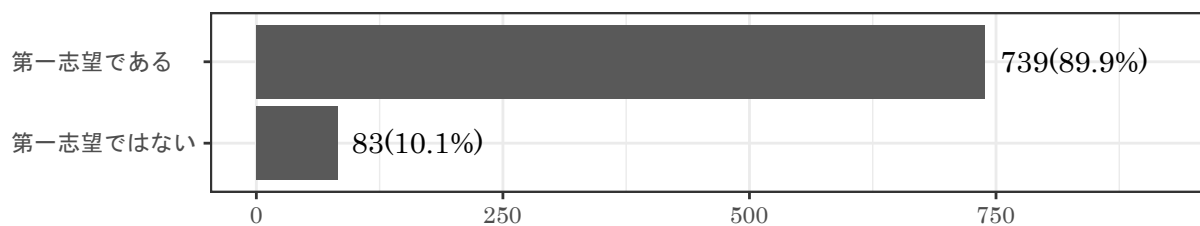


図3 学科の志望順位

2.3.1 学科ごとの学科第一志望有無

学科ごとに、入学した学科が第一志望であったかどうかを集計した。学科によって不本意な入学をした学生の割合が異なっている。第一志望ではない学科に入学したと回答する学生が多い学科は、こうした学生の対応に注意が必要だろう。

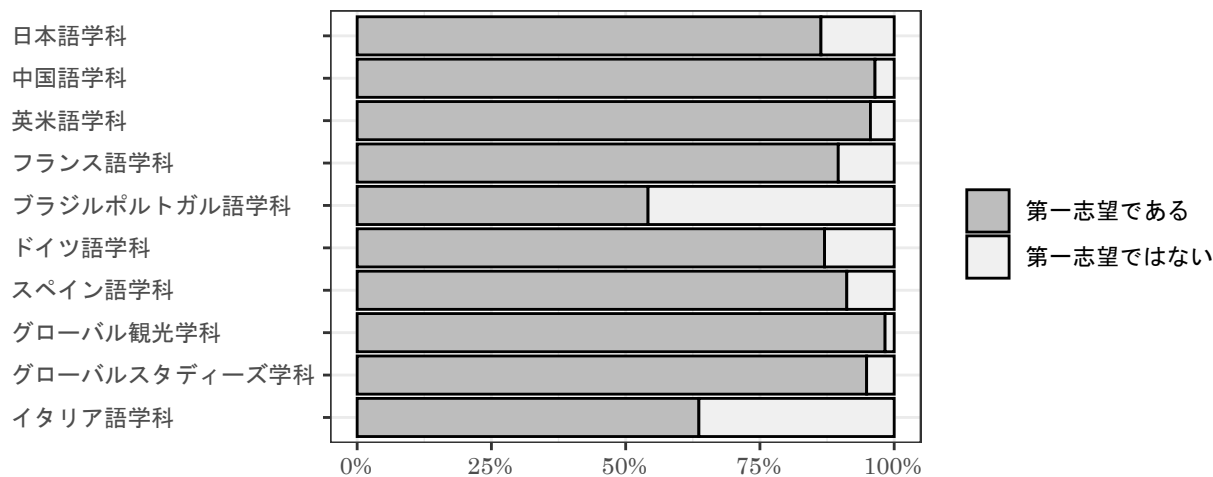


図4 学科ごとの第一志望有無

3 入学を決めた理由

3.1 本学に入学を決めた理由

京都外国語大学に入学することを決めた理由として、複数選択式であてはまるものをすべて選んでもらった。最も言及が多いのは「自分の勉強したいことが学べる」であり、次に多いのが「将来やりたいことのため」となる。自分のやりたいことや将来の目標に照らして本学を選んでいることがうかがえる。これらに続いて言及が多いのは、「外国語の教育内容」や「留学・海外プログラム」など、本学の教育内容に関するものや、校風、自分の学力などである。

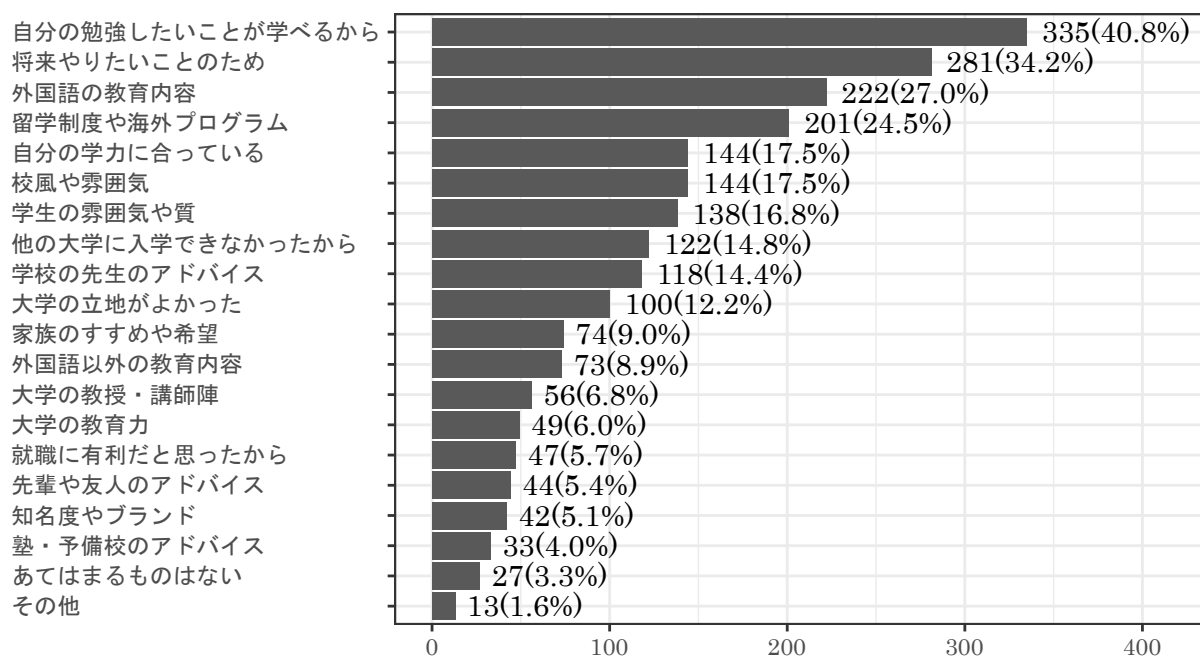


図5 入学を決めた理由

3.2 京都という立地を考慮したか

本学の京都という立地が受験にあたってどれくらい考慮されたかをたずねた。大学の立地は大学選択の本質的な要素ではないと考えられるが、京都という立地を考慮する学生が半数近くいることから、京都にあるということが本学の大きな魅力のひとつであるといえるだろう。

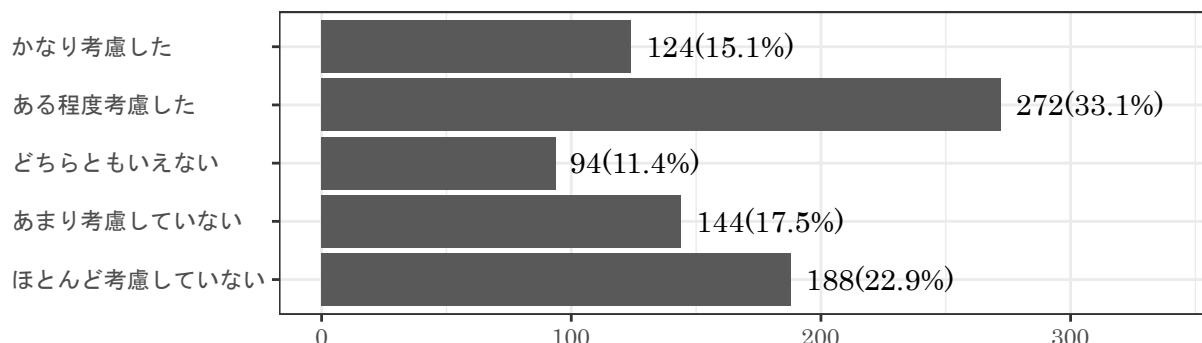


図6 京都という立地を考慮したか

3.3 本学の魅力

数多くの大学から京都外国語大学を選び入学したのは、本学に何らかの魅力を感じたからだろう。ここでは本学の魅力を挙げ、全ての項目について5段階で魅力があるかどうかを評定してもらった。

本学の魅力としてポジティブな評定が多いのは、「専門的に深く外国語が学べる」「数多くの外国語が学べる」「少人数制の授業」「語学検定のスコアが上がる」「グローバルな雰囲気」「留学生との交流が多い」など、本学の特徴や教育内容の柱の部分である。受験生は本学のもつ特徴を理解し、そこに魅力を感じて入学を決めているようである。ただし、在学生調査などの傾向と比較すると、入学時と入学後の印象が異なる項目もいくつかあるようである。例えば「留学生との交流が多い」という点は、ここでの新入生調査では魅力として言及されるが、在学生調査では比較的不満が多い傾向がある。入学時のイメージと実際が乖離している点については、広報や情報提供のあり方と実態の両面から改善を検討する必要があるといえる。

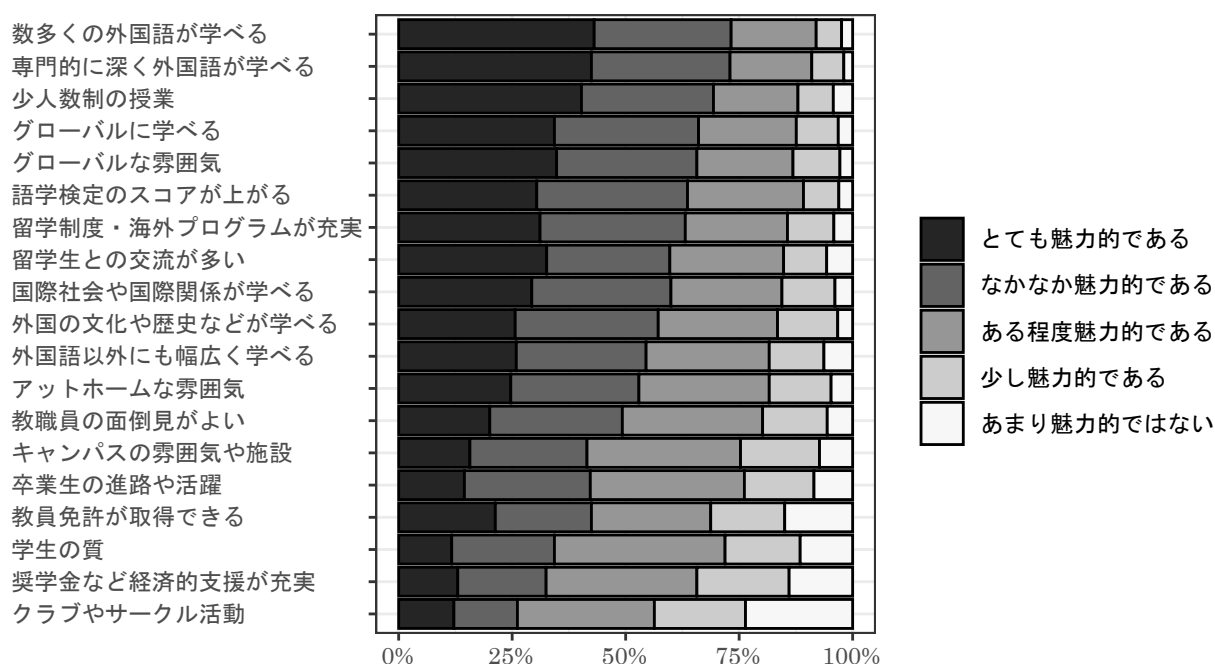


図7 京都外国語大学の魅力

4 大学選択の情報源

4.1 本学を知るのに役立つ情報源

本学のことを知るのに、どのような情報源が役立つかを、複数回答形式でたずねた。言及が多かったのは、「大学のホームページ」や「オープンキャンパス」「大学からの案内」など、本学からの直接的な情報源であるこれらの媒体を通して、受験生に大学の魅力や特色を伝え、適切に大学を選択できるような情報を提供することが重要だといえる。それ以外では、「学校の先生」への言及が多い。高校生が大学を選択するとき、学校の先生の影響はやはり大きいようである。受験生への情報提供とともに、学校の先生への丁寧な情報提供も重要だといえる。

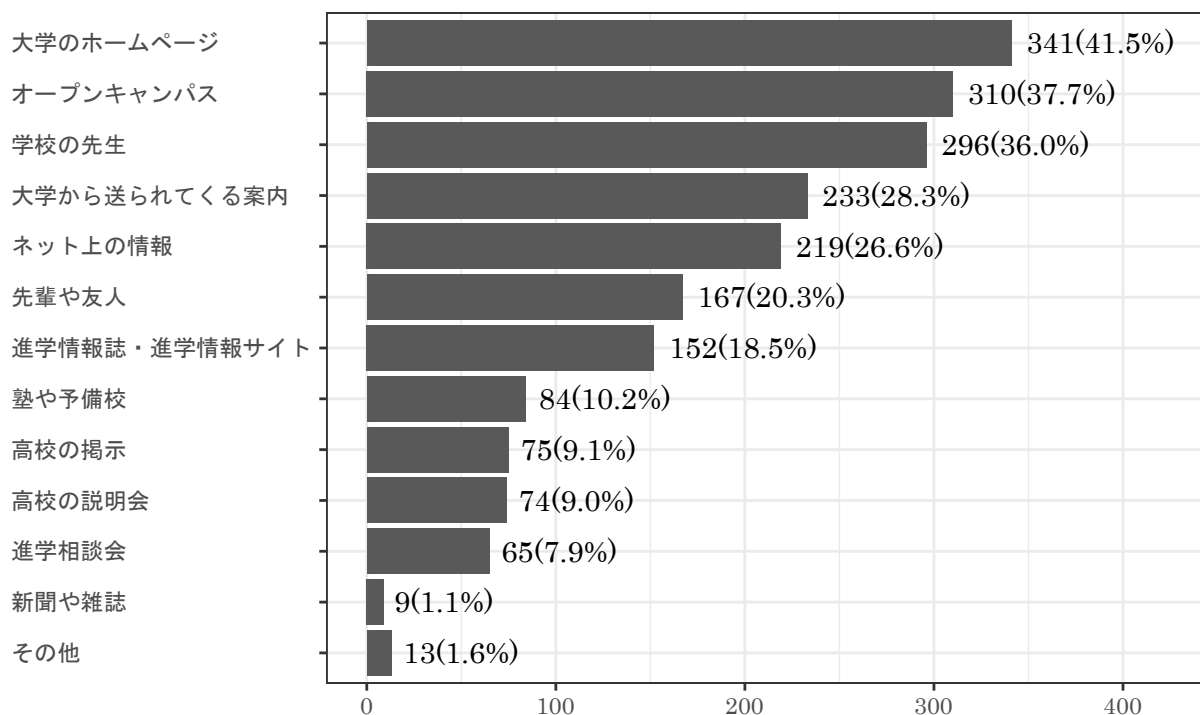


図8 本学を知るのに役立つ情報源

4.2 オープンキャンパス来場経験

大学を選択するのに役立つ情報源として「オープンキャンパス」への言及が多かったが、オープンキャンパスの来場経験をたずねると多くの学生が来場したことがあると回答している。また、来場時期は受験を本格的に検討する3年生の時が多いようである。

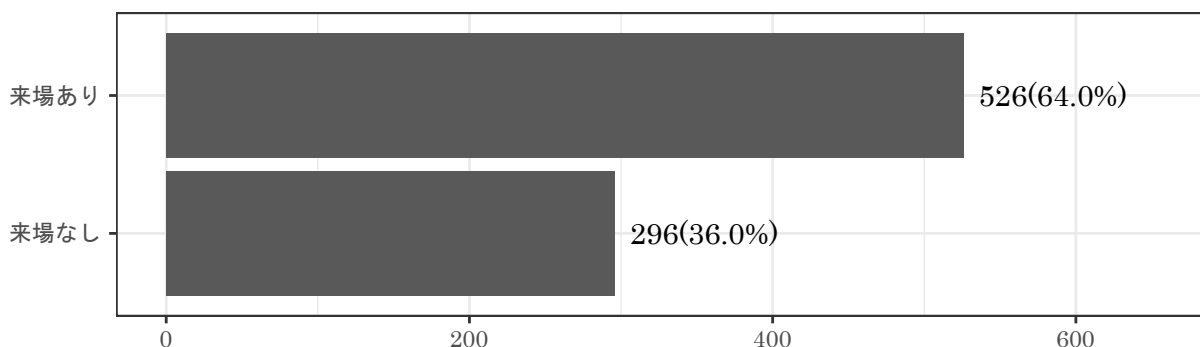


図9 オープンキャンパス来場経験

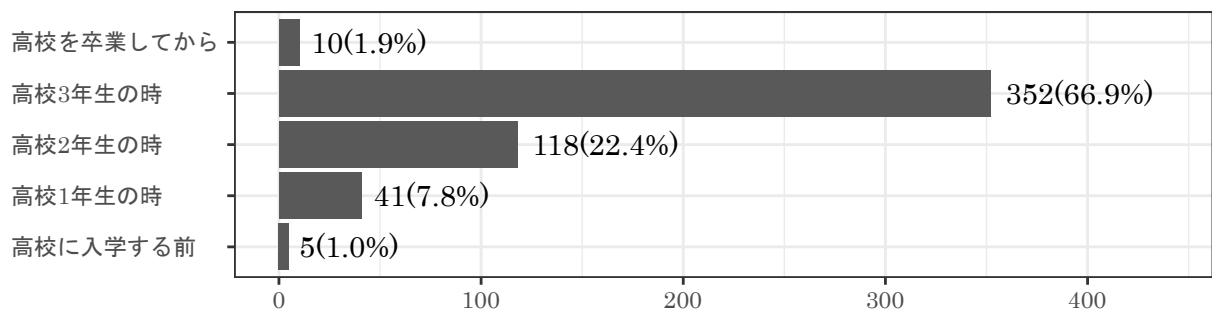


図10 オープンキャンパスへの来場時期

4.3 本学に限らず受験する大学の情報収集に参照した情報源

大学を選択したり情報収集するための媒体は、近年ではインターネットを中心に多数存在している。これらの媒体で参照したものをたずねた。やはり、有名なサイトがよく利用されているようであるが、本学の Web サイトのコンテンツも同様に利用されていることがうかがえる。広報戦略を検討する際には、これらの利用状況を参考に効果的な媒体を考えていく必要があるだろう。

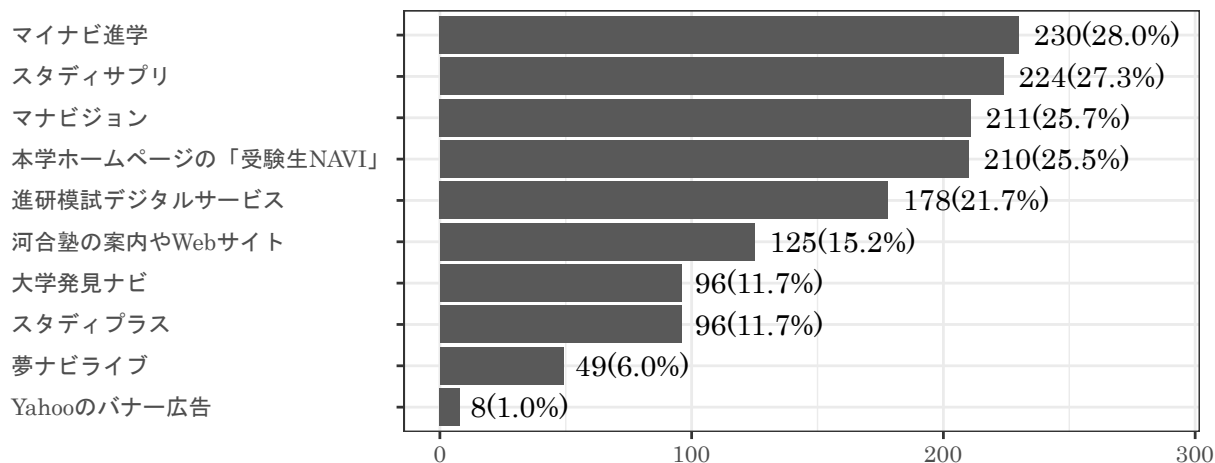


図11 受験や大学選びで参照した情報源

5 大学で勉強したいこと・取組みたいこと

5.1 大学で取組みたいことがあるか・将来の進路イメージ

大学で勉強したいことや取組みたいことが明確になっているかをたずねた。先に示したように、入学を決めた理由として「自分が勉強したいことが学べる」や「将来やりたいことのため」という項目に言及が多かったことに対応して、大学で取組みたいことは比較的明確になっている学生が多いようである。同様に、卒業後の職業や進路についてもたずねたところ、こちらも比較的明確になっているようではあるが、まだ入学直後ということもあり大学で取組みたいことと比べると具体化していない学生も多いようである。

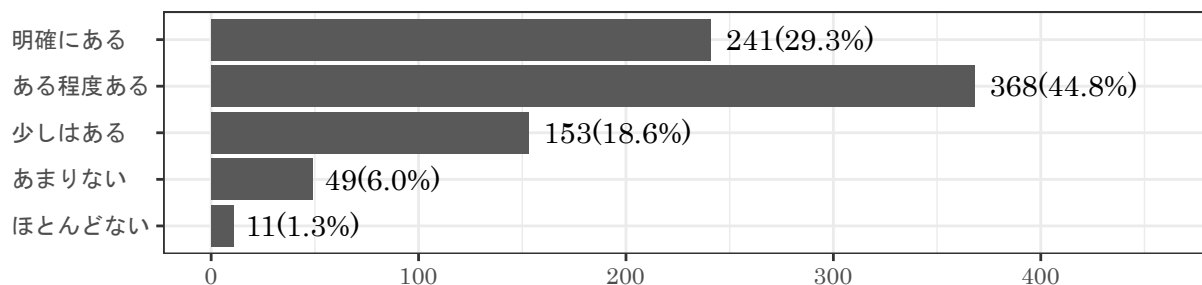


図12 大学で勉強したいこと・取組みたいこと

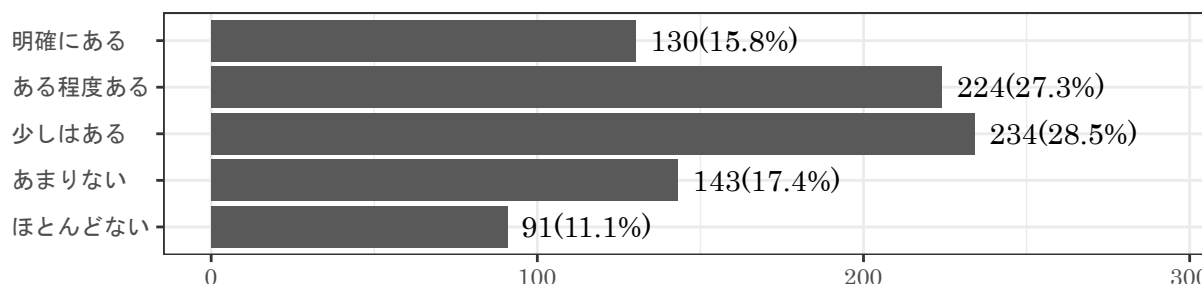


図13 卒業後の進路や職業イメージがあるか

5.2 大学で身につけたい知識やスキル

大学で身につけたい知識やスキルをたずねると、外国語大学であるためやはり「外国語運用能力」や「コミュニケーション能力」を身につけたいと考える学生が多い。そして、これらは卒業時の調査でも身に付いたとされる項目でもある。その意味では、身につけたいと考えている能力が4年間を通して身についたという実感と対応しているといえる。外国語運用能力やコミュニケーション能力への言及の多さは外国語大学の特徴であるともいえるが、他方で本学の教育理念はこれらの育成だけにとどまるものではない。得意分野を伸ばしていくことも重要であるが、これらの能力以外にも学生たちの志向や関心を向けさせ、しっかりと育成していく必要もあるだろう。

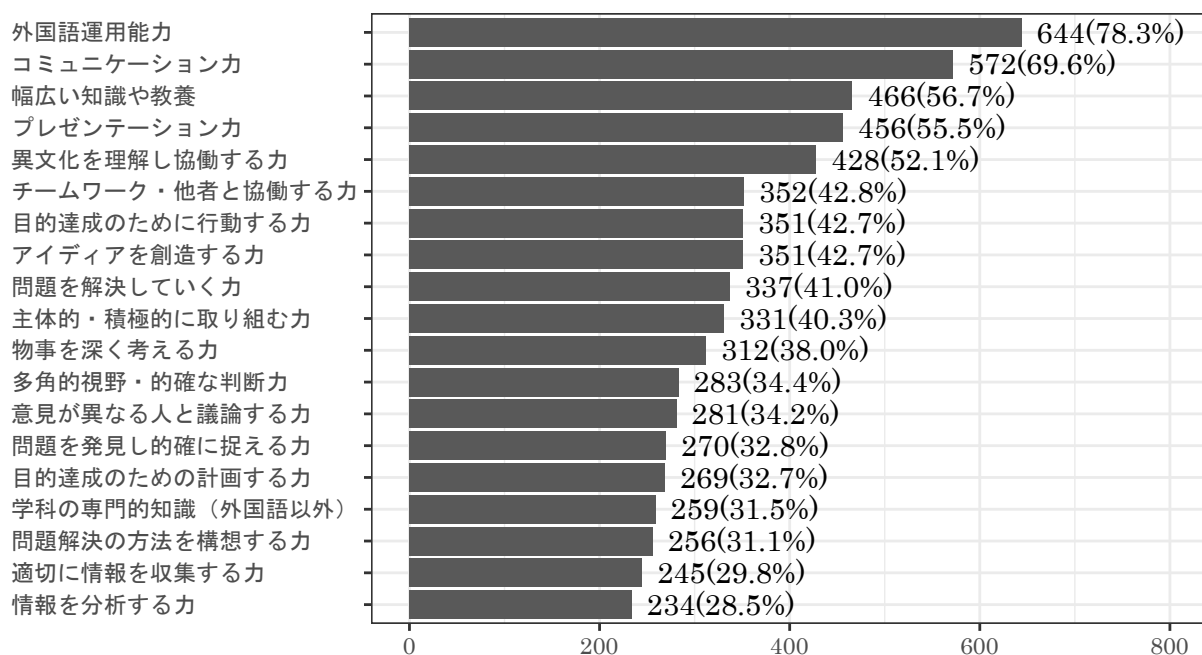


図14 大学で身につけたい知識やスキル

5.3 大学で勉強したいこと興味があること

大学で勉強したいことについて、具体的な分野や内容を示し複数選択形式ですべて選んでもらった。外国語学部と国際貢献学部で傾向は異なるが、両者とも「英語」と「英語以外の外国語」に最も興味を持っている点は共通している。社会科学系の学部として設置した国際貢献学部であっても外国語への言及が最も多いのは、やはり外国語大学だからだろう。興味がある項目を見ると、学部の特徴を反映しているとともに、外国語学部よりも国際貢献学部の方が幅広い分野に関心をもつ傾向にあるようである。

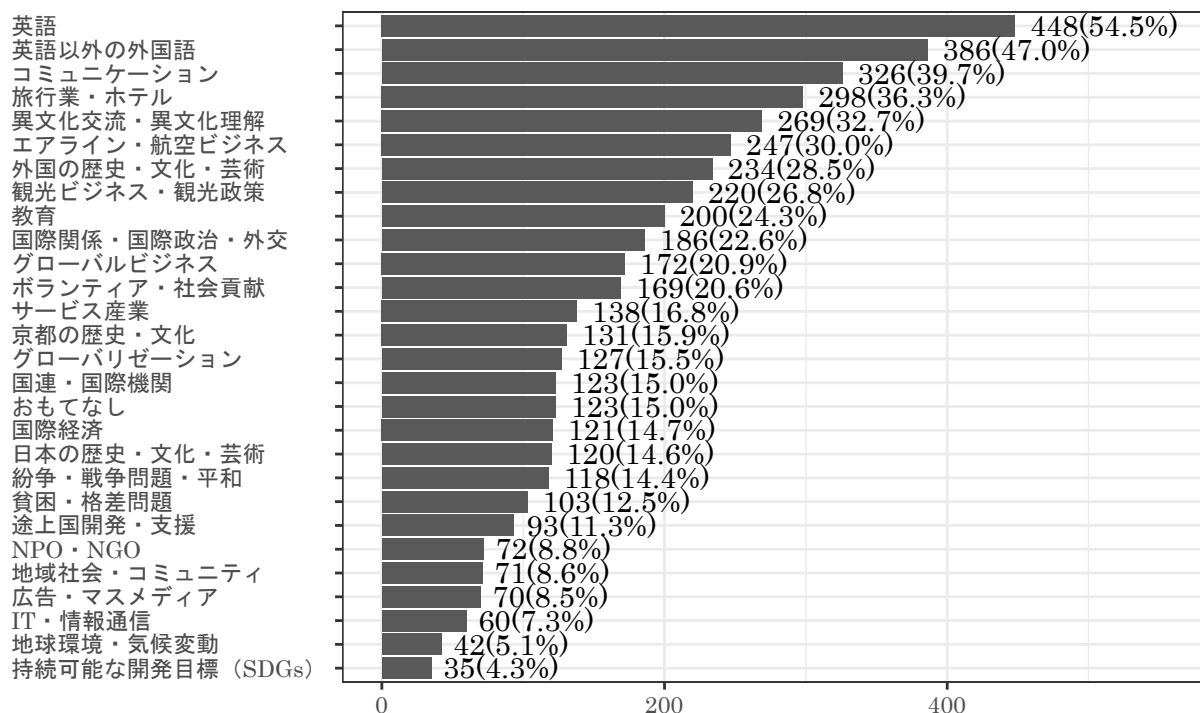


図15 興味がある分野・内容 (外国語学部)

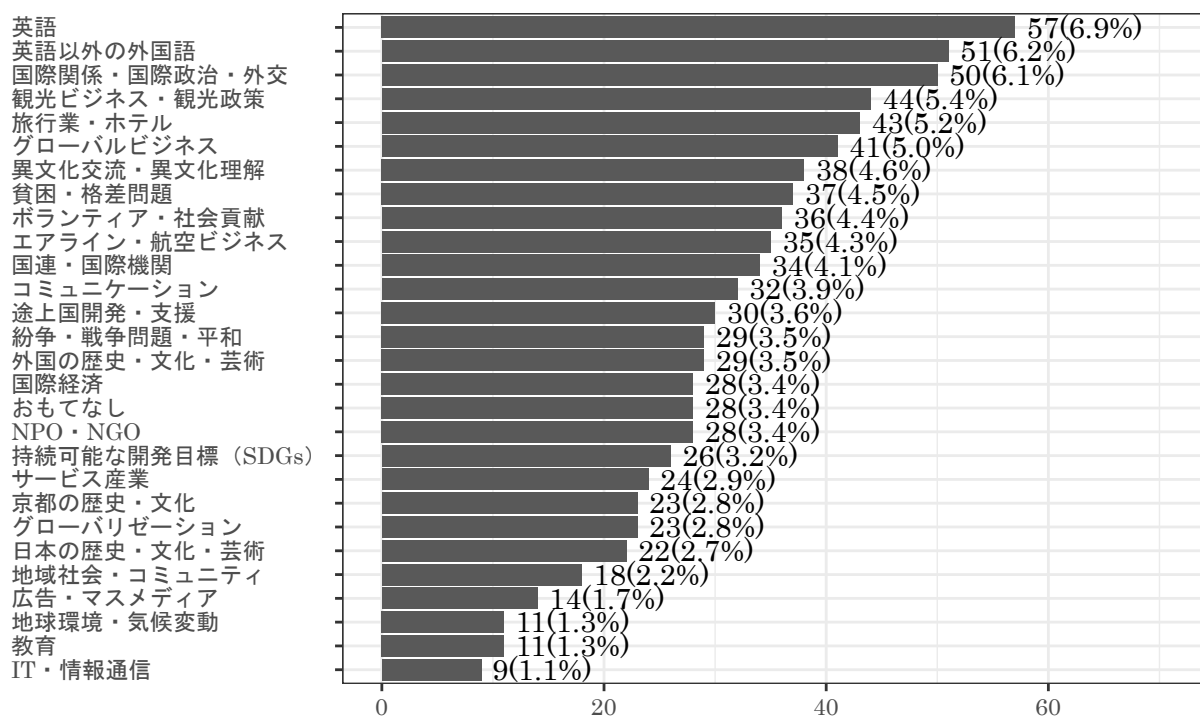


図16 興味がある分野・内容 (国際貢献学部)

5.4 大学生活で力を入れようと思うこと

大学生活で力を入れたいことをたずねた。外国語大学ということもあり、やはり外国語学習や語学検定に力を入れたいと考える学生が多いようである。他方で、「外国語以外の学習」は相対的に重視されていないようである。本学では確かな外国語運用能力とそれを活かすための幅広い教養を教育の両輪としているが、入学直後の学生にはあまり意識されていないようである。この点は、大学教育の中でしっかり理解させていく必要がある点だといえる。これらの他に、友達づくりや遊びにも力を入れたいという学生も多い。大学生活を公私ともに幅広く充実させたいという気持ちがうかがえる。

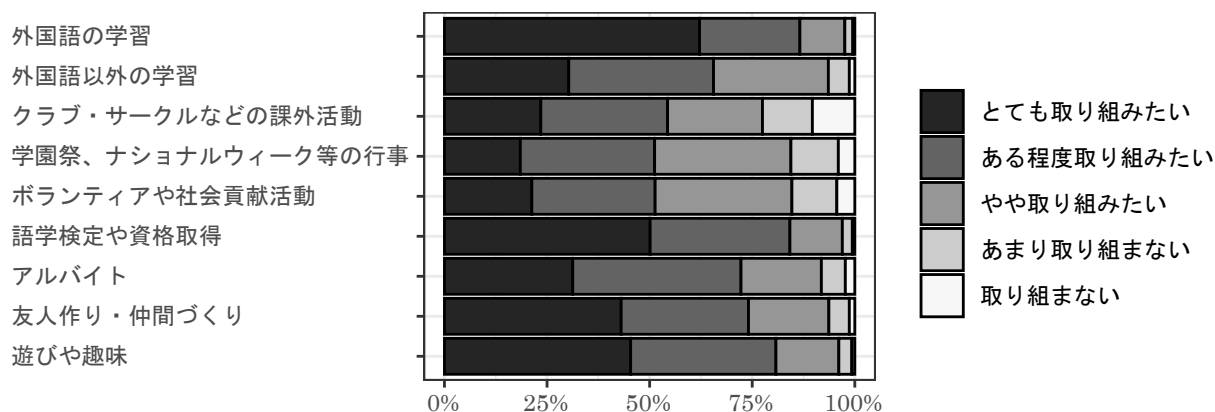


図17 大学生活で力を入れたいこと

6 高校生の時の状況

6.1 高校の時の成績（学校内での位置）

高校の時の英語の成績と総合的な成績について、学校内での相対的な位置をたずねた。英語の成績については、「中の上」から「上位」と回答する学生が多い。他方で、総合的な成績は「中」から「中の上」と回答する学生が多い。外国語大学の特徴として、高校の時に英語が得意だったという学生が入学してきていることがわかる。

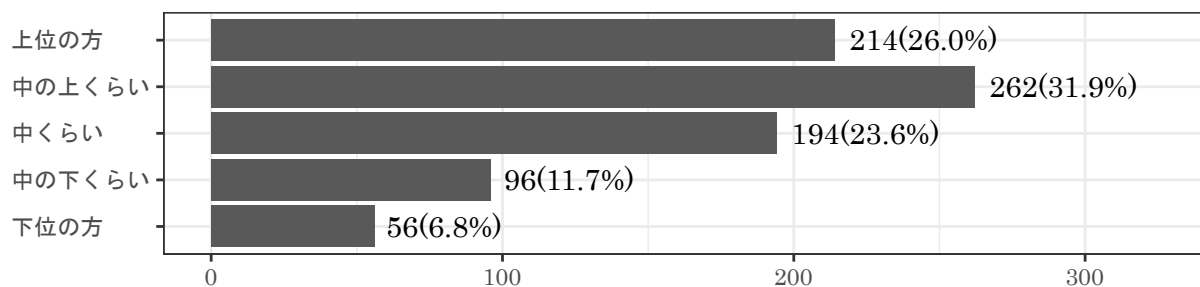


図18 高校の時の英語の成績

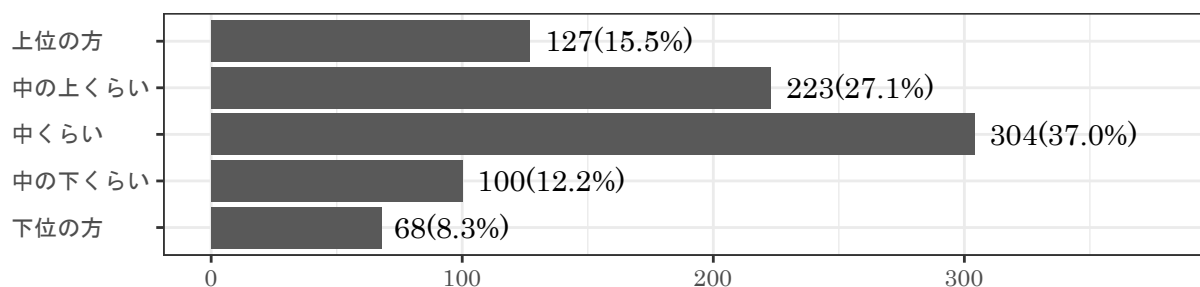


図19 高校の時の総合的な成績

6.2 高校生の時に好き・嫌いだった科目

高校生の時に好きだった科目についてたずねると、やはり英語が好きで学生が多いことがわかる。しかし、英語以外の科目で目立って「好き」と回答される科目はない。先にみた成績の状況とも考え合わせると、ピンポイントで英語のみに関心を持った学生が多いことがうかがえる。これは外国語大学の特徴であるといえるが、本学の教育は英語ないしは外国語教育のみに特化しているわけではない。本学の教育内容の厚みや深みが、学生に十分に伝わっていないところがあるのかもしれない。

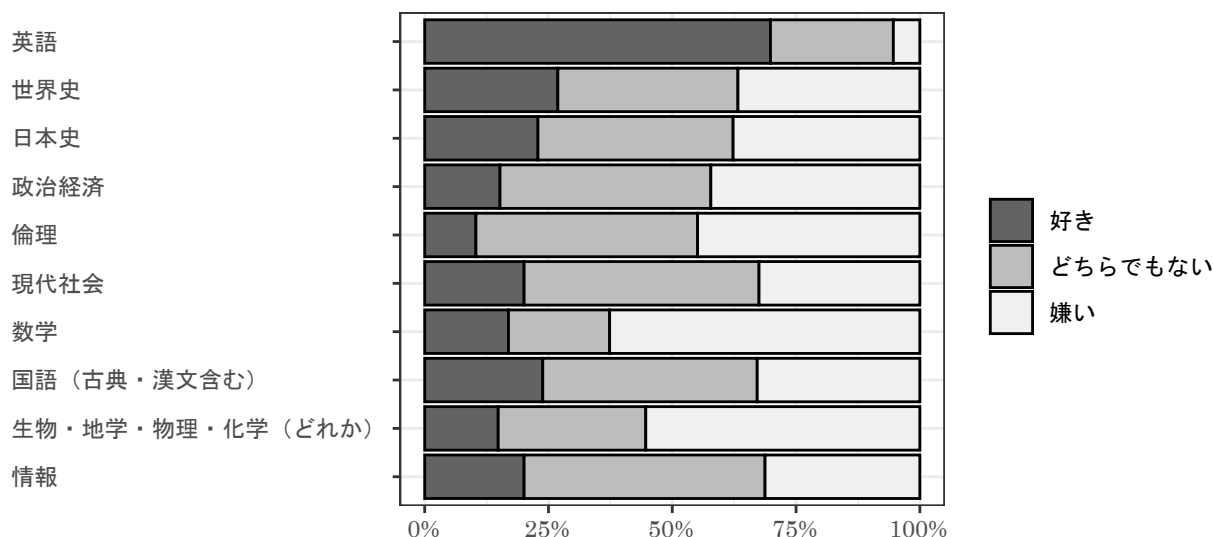


図20 高校生の時に好き・嫌いだった科目

6.3 入学するまでのアクティブ・ラーニング等の経験

入学するまでに、アクティブ・ラーニング等の経験があるかどうかをたずねた。グループワークやプレゼンテーション、ディベート等を経験している学生が大半を占めており、そうした経験を頻繁にしている学生も一定数いることがわかる。しかし、教室を離れて校外で行うような取り組みは、高等学校の段階ではあまり多くはないようである。このような学生の状況を踏まえて大学教育の内容や方法を考えていく必要があるだろう。

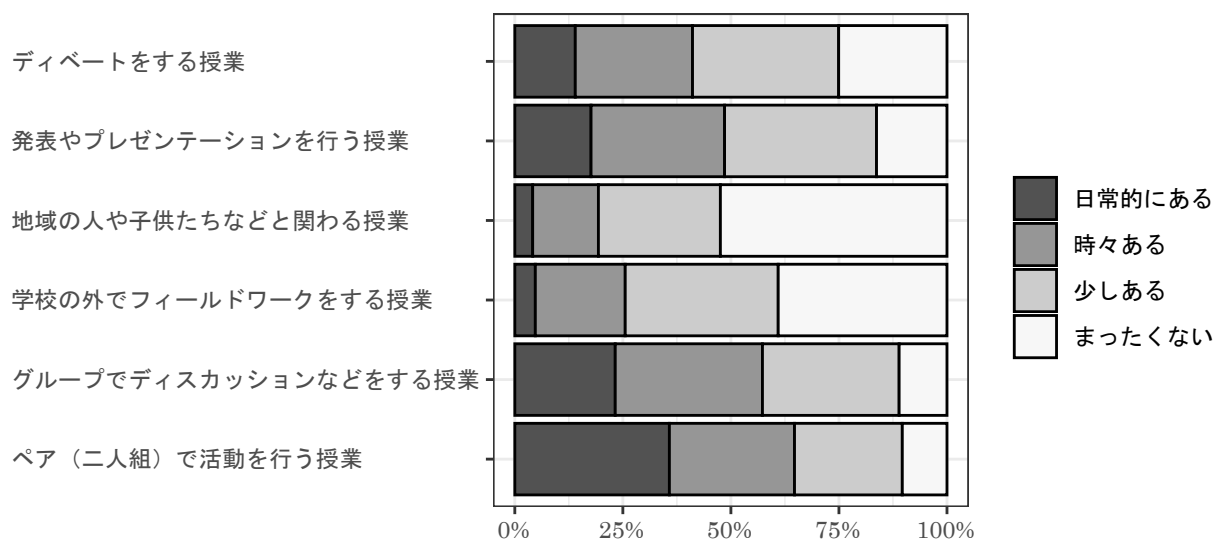


図21 アクティブ・ラーニング等の経験

6.4 高校生の時に取組んだこと

高校生の時に取組んだことについてたずねた。高校での勉強や資格取得とともに、遊びや趣味、友達づくりにも取り組んでいることがうかがえる。

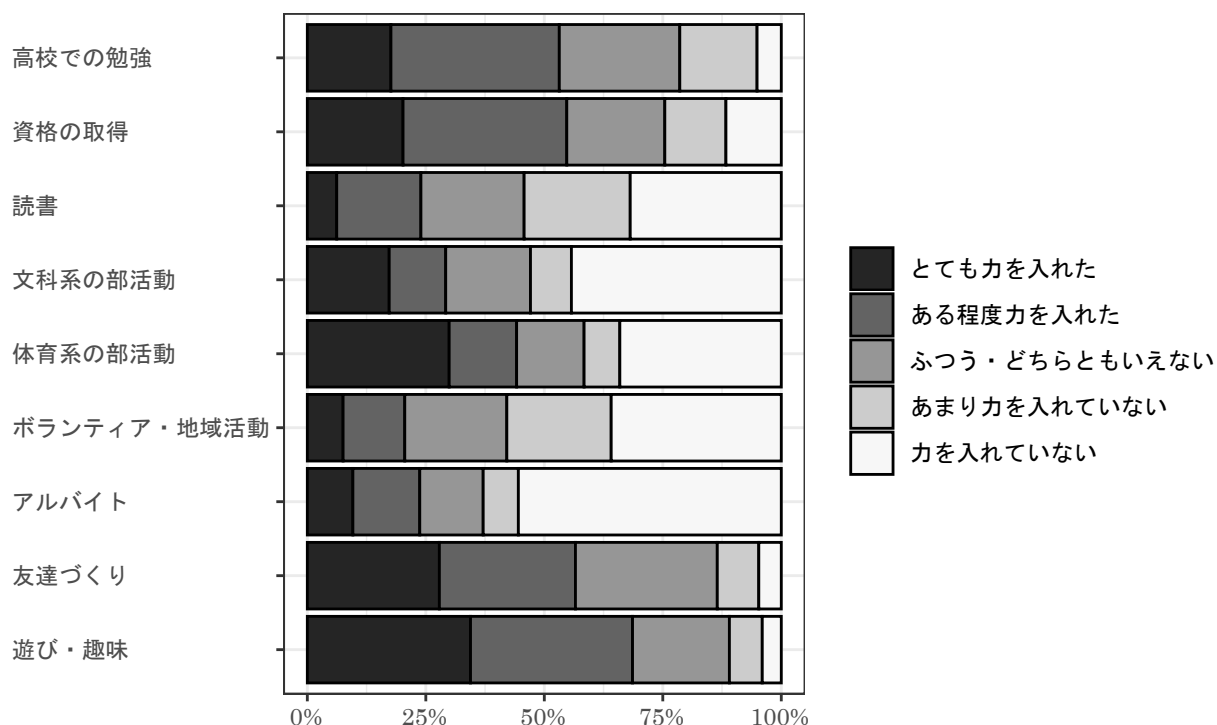


図22 高校生の時に取組んだこと

6.5 学校以外での大学受験のための1日平均の勉強時間

高校3年生の時に、大学受験のために1日平均してどれくらい勉強していたかをたずねた。「3時間以上」という学生が最も多いが、「1時間以内」や「ほとんどしていない」という学生も一定数いることがわかる。本学の教育の柱である外国語学習には日々の継続的な学習が求められるが、学習習慣が十分に身につけていない学生も入学していることを考慮して指導を行うことが必要かもしれない。

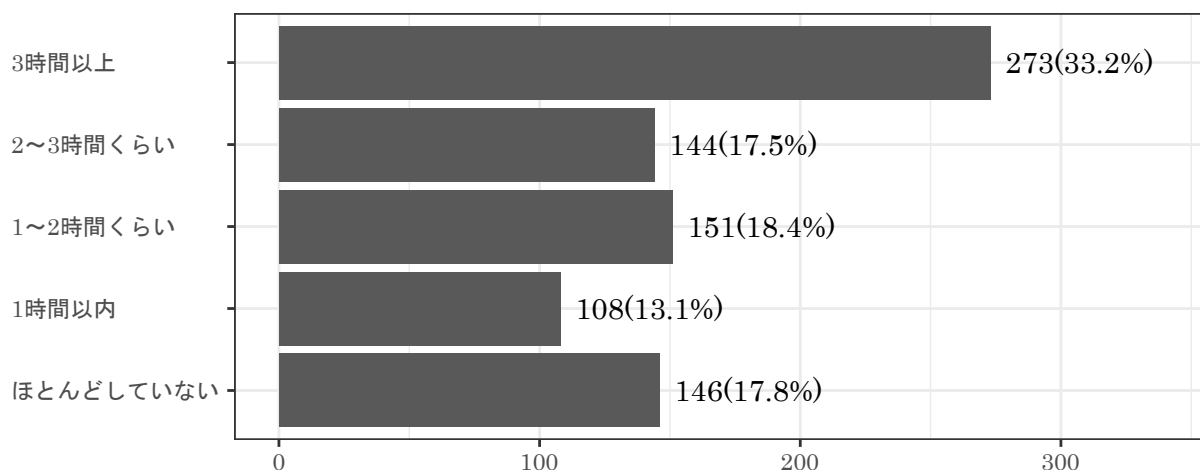


図23 学校以外での受験勉強の時間（一日平均）

6.6 大学入学までの留学・海外研修経験

入学するまでに留学や海外研修の経験があるかどうかをたずねた。4割程度の学生は、何らかの海外経験をしているようである。

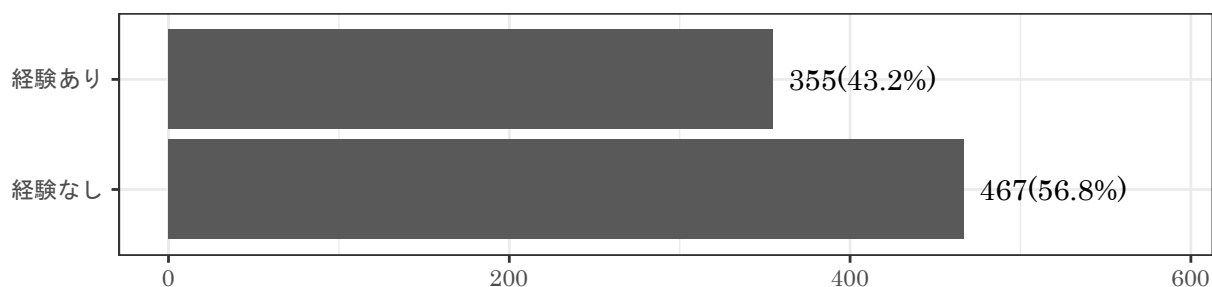


図24 留学・海外研修の経験

6.7 学修に対する志向

学修に対する志向としていくつかの項目を挙げ、それぞれに対して「好き」から「好きではない」まで5段階で評定してもらった。「好き」という言及が平均的に多いのは、「外国語の勉強」「新しい知識を得ること」「誰かの役に立つこと」などである。外国語の勉強が好きというのは外国語大学らしい特徴である。また、好奇心の高さや他者への貢献などが本学の学生の特徴だといえる。

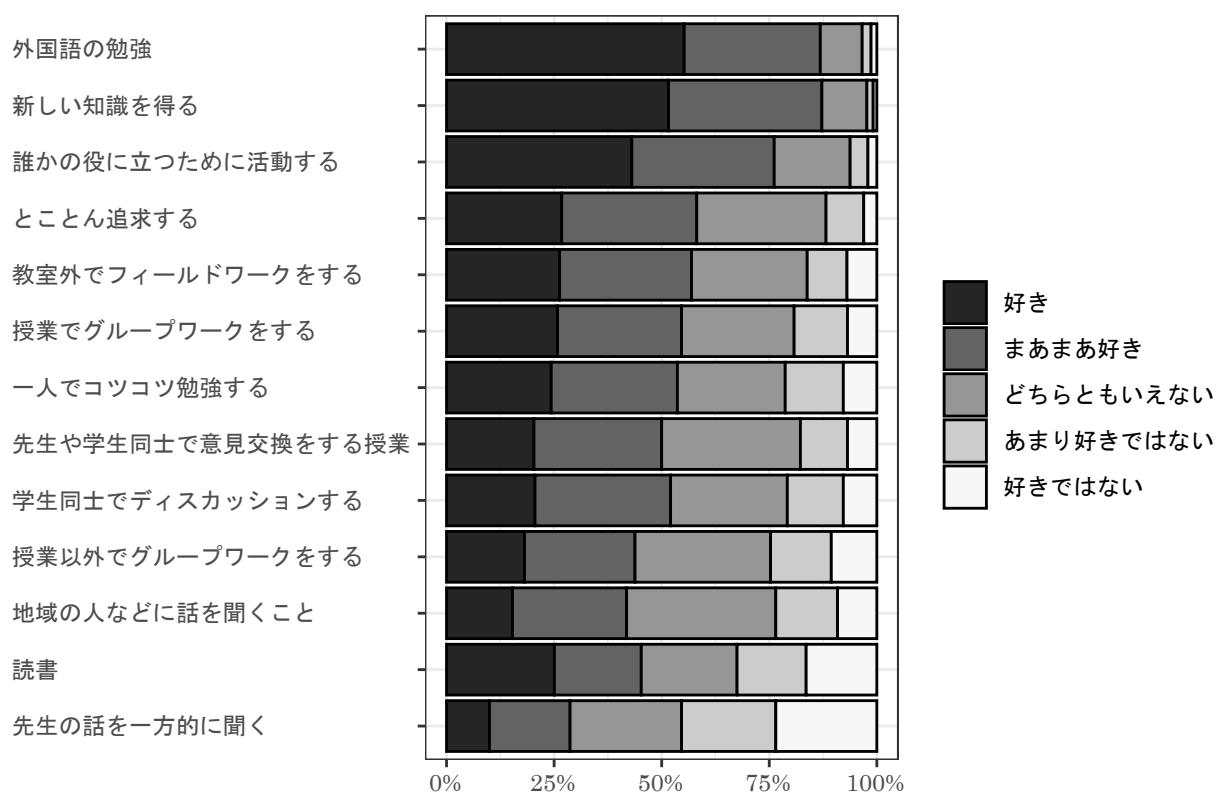


図25 学修の志向

6.8 学修に関する行動

学修に関連する行動についていくつかの項目を挙げ、それぞれについて「非常によくする」から「まったくしない」までの6段階で評定してもらった。読書や新聞を読むなど、紙の活字を読む習慣はあまりないようであるが、ニュースについてはインターネットで見ているようである。SNSの利用はやはり非常に活発であるが、パソコンはあまり利用しないようである。

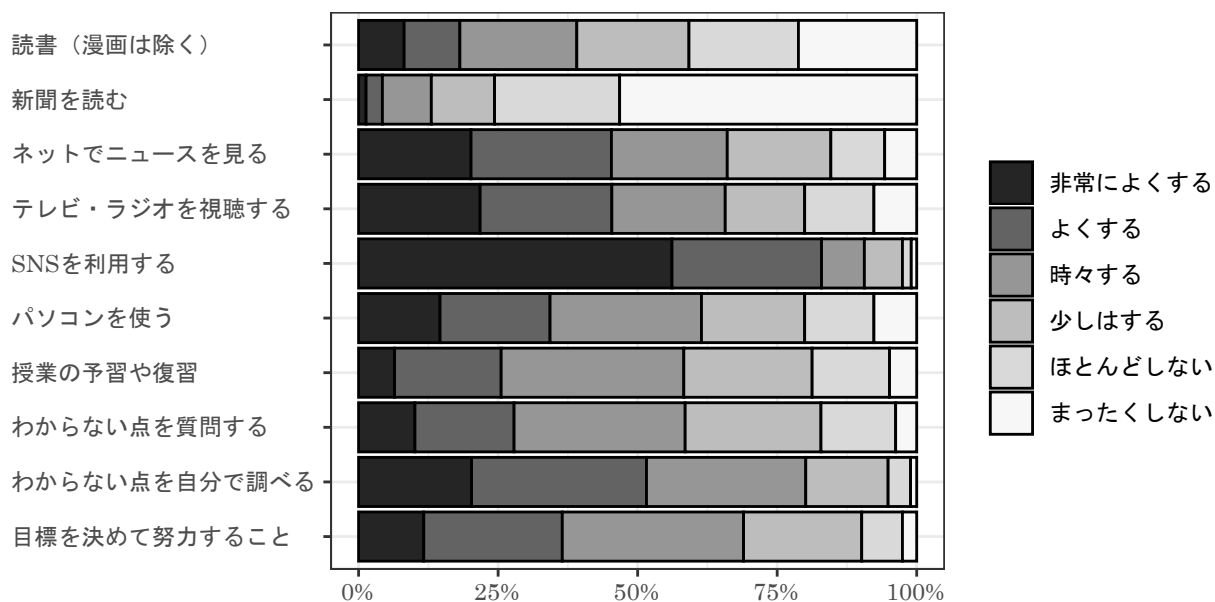


図26 学修に関する行動

7 大学生活の不安や印象

7.1 大学生活の不安

大学生活でどのような不安があるかをたずねた。相対的に不安が強いのは、大学での勉強方法や勉強についていけるか、卒業後の進路等である。他方で、人間関係や大学生活になじめるかどうかについてはあまり不安を感じていないようである。

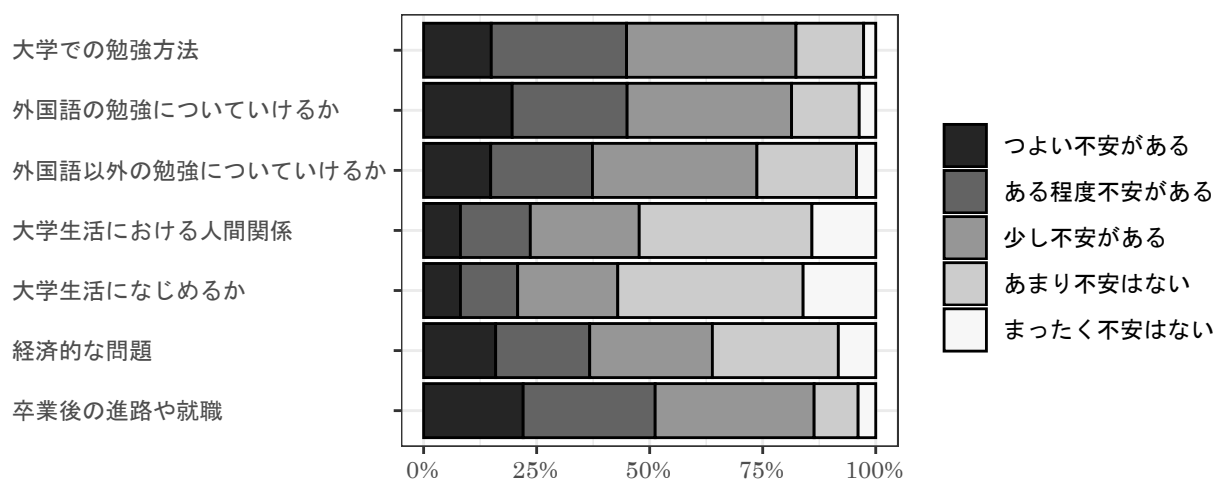


図27 大学生活の不安

7.2 大学生活の印象

この調査は授業期間中ごろに実施しており、新入生がある程度大学生活に馴染んできた時期である。そこで、現時点での大学生活に関する印象をたずねた。項目間の関係や他の設問との関係を検討しなければならないが、単純集計の結果からは大学生活に対するポジティブな印象とネガティブな印象の両面がうかがえる。詳細な分析を進めることで、問題を抱える学生を早期に捕捉するための資料等として役立つだろう。

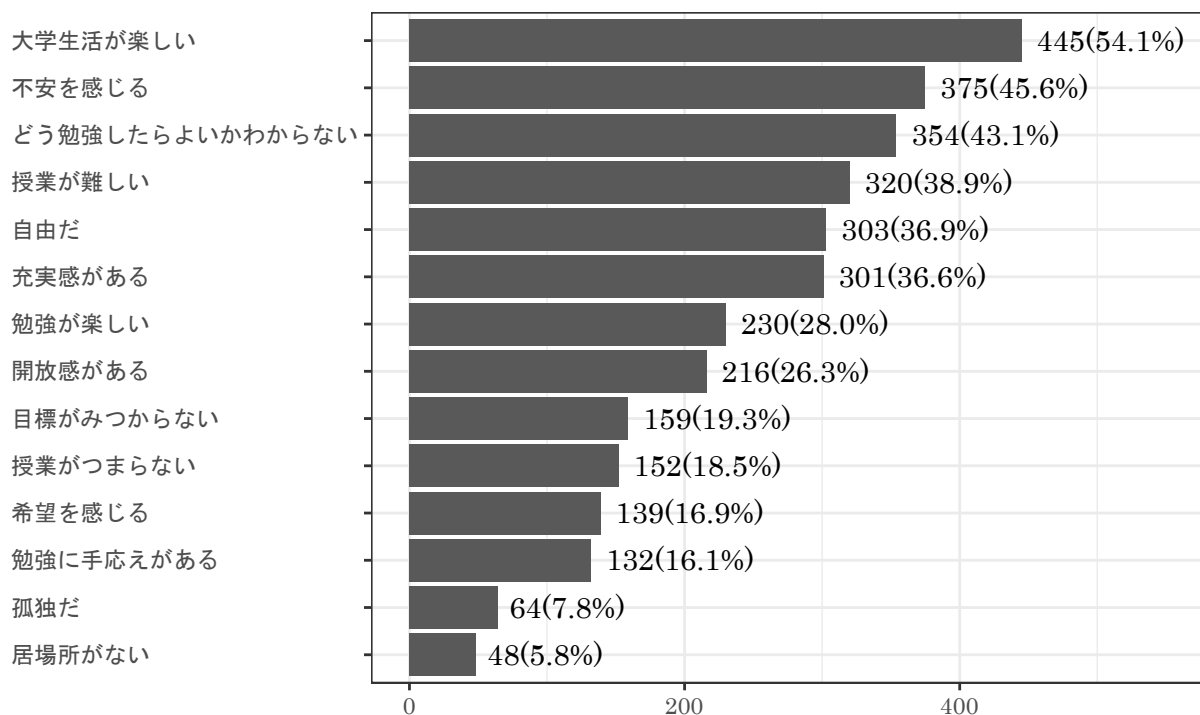


図28 大学生活に対する印象